

会 告

日本鉄鋼協会役員

さる4月5日開催の第51回通常総会において、理事、監事および評議員の選挙が行なわれました結果、本年度の  
本会役員は次の通り選任されました。なお理事の職務担当については、追つて会告いたします。(敬称略)

会 長  
副 会 長  
専 務 理 事  
理 事

佐野 幸吉  
武田 喜三  
田畑新太郎  
足立 彰  
大中都四郎  
菅野 五郎  
丹羽貴知蔵  
盛 利貞  
吉崎 鴻造  
間 端夫  
葦沢 大義  
井上 道雄  
石井健一郎  
稲田 辰男  
入 一  
越後 正一  
大久保 謙  
大原 久之  
岡田 実  
香川 進  
金子 信男  
河合 良一  
北川 一栄  
小出 秋彦  
駒井健一郎  
佐藤武三郎  
阪田 純雄  
鹿喰 清一  
梶山 正孝  
田所 怜  
高尾善一郎  
谷川 正夫  
塚本 清  
富山英太郎  
中野 宏  
西村吉太郎  
蜂谷 茂雄  
久田 清明  
藤川 一秋  
堀田 之孝  
的場 幸雄  
松本 茂樹  
水野庸太郎  
望月 要  
森永 孝三  
安田 汪  
山本 信公  
吉岡 正三

橋口 隆吉

荒木 透  
海江田弘也  
田中 実  
不破 祐  
山本真之助  
芝崎 邦夫  
青 武雄  
東 道生  
井関 剛  
石田 四郎  
稲山 嘉寛  
岩井 英夫  
小田 仲彬  
太田 鶏一  
大浜 侃  
岡村 武  
香春三樹次  
金森 九郎  
河上 益夫  
北原 光雄  
小島 長作  
近藤 良夫  
佐藤 知雄  
作井 誠太  
清水 正博  
関 文男  
田中 勤七  
高瀬 孝夫  
谷口 光平  
辻畑 敬治  
豊田 茂  
中野 義雄  
西村 秀雄  
浜田 正信  
久松 敬弘  
藤木 俊三  
堀口 定雄  
松田 公扶  
松本 豊  
嶺 次男  
森 曉  
森 棟  
柳 隆弘  
山本 博  
吉田 浩

伊木 常世  
桂 寛一郎  
田村純治郎  
松下 幸雄

今井 光雄  
木下 享  
俵 信次  
三ヶ島秀雄

今富 政平  
草川 隆次  
手島 雄二  
三井 太信

内川 悟  
近藤 八三  
中司 正夫  
村田 巖

監 事  
評 議 員

明石 和彦  
網谷 俊平  
井村 竹市  
石田 稔  
猪崎久太郎  
磐城 恒隆  
小田原大造  
大谷 秀数  
大森 基一  
沖 豊治  
嘉村 平八  
金森 祥一  
河田 和美  
喜代永政雄  
小林佐三郎  
五弓 勇雄  
西郷 吉郎  
雀部 高雄  
島村 哲夫  
芹沢 正雄  
田地川健一郎  
高橋麟太郎  
谷村 熙  
土屋 勤  
名児耶 馨  
中村 隆一  
萩原 巖  
早川 種三  
日向 方斎  
藤田 茂  
本田宗一郎  
松平 精  
三島 良績  
宮代 彰  
森 一美  
八木貞之助  
山野上重喜  
養田 実  
吉田 衛

赤坂 武  
荒牧 寅雄  
井戸崎好次  
石原 正美  
茨木 正雄  
岩武 照三  
小野 健二  
大谷米太郎  
大元 博  
奥村 虎雄  
鍵和田暢男  
川勝 一郎  
木寺 淳  
久米 定男  
小林清一郎  
後藤 武夫  
斎藤 正年  
里井孝三郎  
菖蒲 正俊  
莊 清彦  
田中 国雄  
滝沢 工  
俵 隆治  
筒井統一郎  
中川不器男  
中山 育雄  
橋浦 彦三  
原田 惠伍  
平世 将一  
藤田 俊三  
前岡 実  
松永陽之助  
三谷 祐康  
村尾時之助  
森崎 晟  
矢島悦次郎  
山内 二郎  
横田 正成  
和田 亀吉

秋田 武夫  
井上 反喜  
伊藤 正夫  
石原 善雄  
今井勇之進  
植山 義久  
小野田武夫  
大津孝太郎  
大矢根大器治  
奥村 福次  
柏村 寿雄  
川又 克二  
木下 正  
栗山 俊治  
幸田 成康  
佐々川 清  
斎藤 弥平  
三本木貢治  
菅野 猛  
園田 一夫  
多賀谷正義  
武田 修三  
茶谷 順次  
妻木 徳一  
中島 省一  
西 博  
橋本 字一  
原田 静夫  
平田 竜馬  
藤本 一郎  
前田 菊雄  
松原与三松  
三宅 卓  
村上 英二  
森田 惠三郎  
矢野 雅雄  
山口 利彦  
横山金三郎

浅野 檜一郎  
井上 敏郎  
池島 俊雄  
出淵 国保  
今里 広記  
梅津 良之  
大柿 諒  
大野 嘉市  
岡田 儀一  
香川 英史  
門野 正二  
川村 宏矣  
菊池 浩介  
黒田 康彦  
河野 文彦  
佐藤 忠雄  
酒井 佐敏  
志村清次郎  
杉 正道  
田口 連三  
平 修二  
平原 康夫  
津田 久  
外島 健吉  
中島 正樹  
西野 武彦  
長谷川正義  
檜山 広  
深堀 佐市  
堀田 秀次  
増本 量  
松本兼二郎  
水島三一郎  
室井嘉治馬  
森田 志郎  
安田 勇治  
山田良之助  
吉井 周雄

### 3. 申込用紙記載について

- 1) 第1, 第2種とも\*印をのぞき(A), (B)の両方にご記入下さい。
- 2) プログラム編成上の参考としますので, 「論文分類欄」に講演内容が下記のいずれに該当するかおよび基礎応用の別をご記入下さい。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
原	燃	耐	製 銑 ( <small>ロアロイを含む 特殊製鉄・フエ</small> )	製 鋼・溶 解	造 塊	塑 性 加 工	熱 処 理	鉄 鋼の組 織・性 質	鑄 物	溶 接 ( <small>溶接技術全般</small> )	腐 食・表 面処 理・防 食	分 析	試 験・検 査技 術	計 測・自 動制 御	I E そ の 他 一 般 技 術	そ の 他

- 3) スライドの要否は該当するものに○印をつけて下さい。
- 4) 講演者には必ず氏名の前に○印をつけて下さい。
- 5) 第2種申込み書の講演内要の要旨は100字を限度としてご記入下さい。

### 4. 申込みの受理

第1種講演, 第2種講演とも別記申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。ただし下記の申し込みは理由の如何にかかわらず, 受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申し込み
- 2) 必要事項が記入されていない申し込み
- 3) 第1種講演で講演論文が添付されていない申し込み
- 4) 単なる書簡または葉書による申し込みならびに電報, 電話による申し込み

### 5. 講演申込み先 (問合せ先)

東京都千代田区丸の内1-1 交通公社ビル  
日本鉄鋼協会 編集課

## 第72回講演大会討論会討論論文募集

第72回講演大会における討論会のテーマ(鉄と鋼1月号, 4月号会告掲載)は下記の通りです。多数会員奮ってご応募下さい。なお, 追加テーマ(太字)がございますのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 討論会テーマ

- 1) 高炉における高圧操業
- 2) 鋼の脱酸と非金属介在物
- 3) 熱間振り試験による鋼の加工性の評価
- 4) X線マイクロアナライザーの鉄鋼への応用
- 5) 鉄鋼の格子欠陥

2. 原稿申込方法 会告N41 ページ掲載の第1種講演申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。

3. 原稿締切日 昭和41年5月16日(月)

## I. 第1種講演申込み要領(討論講演原稿を含む)

- 1) 講演申込締切 昭和41年5月16日(月)16時着信厳守のこと。
- 2) 申込み方法 前記「講演申込み上の注意」をご覧のうえ添付の第1種講演申込み用紙(黄色)に必要事項を記入し、講演論文を添えお申し込み下さい。
- 3) 討論講演原稿 討論講演原稿としてお申込みの方は、原稿表紙「原稿の種類欄」の右隅に「討論講演」と朱書して下さい。
- 4) 講演時間 1講演につき講演15分、討論10分とします。
- 5) 講演論文原稿 原稿執筆のさいは会告N43ページ掲載の講演論文寄稿規程をよくお読みのうえ、つぎの各項目についても十分ご注意下さい。
  - (1) 原稿表紙に必要事項を記入し、原稿用紙には題目、著者名など重複記入しないで下さい。
  - (2) 論文の内容が豊富な場合には、第1報、第2報の分割形式(例参照)としてもさしつかえありません。

(例) 焼入性におよぼす酸素の影響について  
(鋼の焼入性に関する研究-I)
  - (3) 英文・和文要旨は原稿枚数には数えません。
  - (4) 章、節などの表わし方は、下記のごとくポイント・システムを用いること。

章	1, 2, 3
節	1-1, 1-2, 1-3
項	1-1-1, 1-1-2, 1-1-3
小見出	(1), (2), (3)
  - (5) 文章は楷書にして、鉛筆書きはさけること。
  - (6) 数字は2字で和文活字の1字分に相当するので表の原稿作成には特に注意のこと。また縦、横のケイも1字分に相当する。
  - (7) 表原稿には図を挿入しないこと。
  - (8) 図の原稿は鮮明なもので規定第15項にしたがつて作図し、方眼状の目盛りを入れること。
  - (9) 講演論文中単なる工場設備、工場建設の記録、製品の紹介にすぎないものは論文原稿として採用しない場合があります。
- 6) 講演論文集 「鉄と鋼」第52年9月号または10月号として刊行いたします。
- 7) 講演論文別刷 希望者に部数を20部と限定、有料で作成いたします。
- 8) 講演論文の採否 編集委員会において採用の決定した論文は第52年8月号に発表の講演プログラムにて採用通知にかえさせていただきます。不採用原稿については別途ご連絡いたします。
- 9) 原稿の訂正 昭和41年6月15日以後の原稿修正は印刷作業の都合上お断りいたします。
- 10) 原稿用紙 協会所定の原稿用紙は1冊30円(30枚綴)で頒布いたします。送料下記の通り。

1部	20円	2部	40円	3部	60円
4部	70円	5部	90円	6部	110円

## II. 第2種講演論文申込み要領

- 1) 講演申込み締切 昭和41年6月18日(土)12時着信厳守のこと。
  - 2) 申込方法 前記「講演申込み上の注意」ご覧のうえ、添付の第2種講演申込み用紙(橙色)に必要な事項ご記入のうえ、返信用封筒(宛先明記, 10円切手粘付のこと)を添えお申し込み下さい。
  - 3) 講演時間 1講演につき講演10分, 討論5分
  - 4) 講演概要 講演概要は前刷としてオフセット印刷いたします。
    - (1) 申込書受付と同時に講演申込者は**所定のオフセット用原稿用紙**をお送りいたしますので、**原稿用紙1枚**(表, 図, 写真を含み1300字)に**墨または黒インク**で明瞭にお書き下さい。(執筆案内は原稿用紙送付の際同封いたします)
    - (2) 講演概要は読者が, 研究の内容, 成果などを理解しやすいようにお書き下さい。
    - (3) **原稿締切日 昭和41年8月31日(水)16時着信厳守のこと。**
  - 5) 講演前刷 「講演概要集」として発行いたします。  
概要集は希望者に有料頒布となりますが, 詳細は追つてご案内いたします。
  - 6) 概要講演の投稿 第2種講演は事後討論を含めたその内容を講演論文として会誌に掲載いたしますので, **11月10日**までに協会編集課宛原稿をご提出願います。  
この論文は「講演論文寄稿規定」に準じてご執筆下さい。
-

## 「鉄と鋼」講演論文寄稿規程

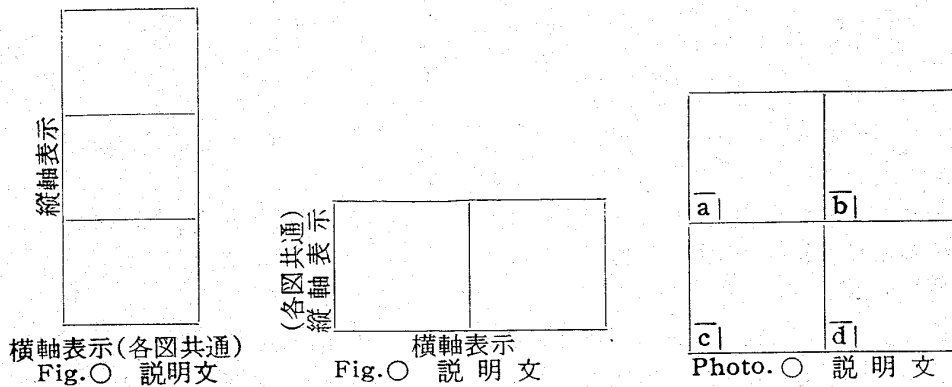
講演論文は本協会会員が本協会講演大会においてその研究結果を発表するために、その講演大会で発表する予定の研究結果を講演論文としてあらかじめ協会に提出し、講演論文集に掲載されるものである。講演論文の内容は著者の独創的研究結果で、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が正確に記述されているものとし、講演論文の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙 8 枚以上 16 枚まで**、**図・写真はあわせて 5 枚以内**として、規程の締切日までに提出しなまればならない。

- (1) 講演論文は、本誌に載せる前にほかの学協会の講演会において発表されないものに限る。
- (2) 講演論文は、年 2 回（春、秋）開催される本協会講演大会において発表する予定の研究結果をまとめ、本協会によりそのつど定める期限内に協会へ提出されるものとする。
- (3) 講演論文の内容は著者の独創的寄与を主体とするもので、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が明確に記述されているものとする。内容が豊富な場合には、第 1 報、第 2 報の分割形式（例参照）としてもよい  
(例) 焼入性におよぼす酸素の影響について  
(鋼の焼入性に関する研究—Ⅰ)
- (4) 原稿の表紙および原稿用紙は本協会所定のものを用いる。原稿の表紙には所定事項を確実に記入し、原稿は左横書きとする。
- (5) 平易な口語体を用い、漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い、かなは新かなづかい（第 4 表の例を参照）によること。
- (6) 講演論文には必ず英文題目、100 語以内の英文要旨、英文要旨の和訳文を添付する。英文要旨は編集委員会で審査の結果、Tetsu-to-Hagané Overseas に掲載されることがあるので、それによつて主要成果がわかる程度に書かれていること。
- (7) 講演論文の原稿の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙 8 枚以上 16 枚までの範囲内に限定し、図および写真はあわせて 5 枚以内**とする。図および写真の占める面積については、下記の (15) 項を参考にして正しく算定し、原稿枚数が規定外にならないようにする。また同一の事項を図・表両方で表わさないこと。
- (8) 文章には、最も読みやすくするために句点（，）および終止点（。）を適当に付ける。いずれの場合にも原稿用紙の 1 こまをあてる。
- (9) 数量を表わす場合にはアラビア数字を用い、単位は原則として CGS 単位系を用いるが、電磁気量の場合には MKS 単位系を用いてよい。単位の略記号は第 1 表の例に従う。周知でない単位には略記号を用いないこと。
- (10) 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが、周知のものはかたかな書きとする。なお必要な場合は原語を書き添える。元素名、合金名、化合物名はなるべく化学記号によつて示すが、周知の合金名、化合物名は化学記号表示を行なう必要はない。（第 2 表の例参照）
- (11) 英字、数字、ギリシャ文字はていねいに記し、混同しやすい文字はとくに注意して書くこと。英字の大文字、小文字、ギリシャ文字で混同しやすい文字はとくに赤字で  $\textcircled{\omega}$ 、 $\textcircled{\theta}$  などと傍記する。ゴシック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ  $\text{—}$ 、 $\text{~~~~}$  を付けること。添字の上ツキ、下ツキは正確に記すこと。
- (12) 数式は印刷に便利なように注意し、 $b/a$ 、 $(a+b)/c$  のように、不明確にならない程度になるべし少ない行数で表わすように書く。
- (13) 表はなるべく本文中に挿入すること。1 つの表の大きさは、会誌の 1 ページの面積を考慮し、横の刷り上がり寸法 7cm または 14.5cm、縦の刷り上がり寸法 18cm 以内におさまるようにする。
- (14) 図・写真・表の説明は英文とする。写真には必ず倍率を記入する。
- (15) 図および写真は、横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の 2～3 倍大とし、下記の縮尺記号を記入しておくこと。

(イ) 横 7cm (縮尺 A)。 (ロ) 横 14.5cm (縮尺 B)

刷り上がり後の縦の寸法は 18cm 以内とする。

図および写真の横の縮尺が上記のように定めれば、縦の刷り上がり寸法も定められるから、図および写真の占める面積を算出し、下記の規準に従つてその面積に相当する字数を求め、原稿の長さが本規程 (7) の



範囲外にならないようにする。

縮尺Aの場合、刷り上がり面積 42 cm<sup>2</sup> は 400 字、すなわち所定原稿用紙 1 枚に相当する。

縮尺Bの場合、刷り上がり面積 87 cm<sup>2</sup> は 800 字、すなわち所定原稿用紙 2 枚に相当する。

図および写真を並列して 1 個に取り扱うことができるのは、下記の数例の場合に限る。

図は白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて書き、図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもって正確に書くこと。

- (16) 図および写真は散逸を防ぐため、原稿用紙または適当な大きさの合紙に貼付し、右下隅に著者名を記入すること。図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし、原稿中には右欄外にその挿入箇所を指定する。原稿本文中に図・写真挿入箇所を空白にあげないこと。
- (17) 参考文献は、通し番号を付け、本文の最後一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号(かっこ付き)を上つき小数字で示す。  
参考文献は著者名：雑誌名、巻数(発行年度)、号数、ページ数の順に記載すること。  
(例) R. K. GLASS: Blast Furn. & Steel Plant, 46 (1958)2, p. 198~204  
雑誌名は第3表の略記例に従う。単行書は、著者名：書名、(発行年度)、ページ数、[出版社名]の順に記載する。  
第2報以後の講演論文には必ずその前報を参考文献として示すこと。
- (18) 寄稿された講演論文の受理年月日は、本協会が定めた講演論文原稿締切日とする。
- (19) 寄稿講演論文は編集委員会において審査される。下記の各項のいずれかに該当するものは受理されない。  
(a) 学術および技術への寄与がほとんど無いと考えられる場合  
(b) 著者の独創的寄与がほとんど含まれていない場合  
(c) その講演論文に直接関連するほかの重要な研究論文を参考文献として示していない場合  
(d) 寄稿規程の(6)、(7)、(15)、に確実に従っていない場合およびそのほかの規定に著しく違反する場合  
(e) 内容に顕著な誤りが含まれている場合  
また編集委員会において、内容の一部を修正、削除することがある。
- (20) 支部講演会における発表は、講演論文の形では受理しないので、早期の誌上発表を希望するときは研究速報の形式で原稿を提出すること。
- (21) 講演論文の原稿は返却しない。
- (22) 講演論文の別刷は部数を20部に限定、希望者に有料で作成する。

第1表 単位およびその記号の例

量	単位の名称	単位記号	量	単位の名称	単位記号
角 度	ラジアン	rad	工 率 動 力	キロワット	kW
	度	.....°		ワット	W
長 さ	度分	.....'	エルグ毎秒	erg/sec	
	度分秒	....."	英馬力	HP	
	キロメートル	km	温 度	セツ氏温度	.....°C
	メートル	m		絶対温度	.....°K
	センチメートル	cm	熱 量	ジュール	Joule, (J)
ミリメートル	mm	キロカロリー		kcal	
マイクロン	μ	カロリー	cal		
オングストローム	Å	熱伝導度	カロリー毎秒センチメートル度	cal/(sec. cm. deg)	
面 積	キロX線単位	kX	比 熱	ジュール毎キログラム度	Joule/ (kg·deg)
	平方メートル	m <sup>2</sup>		カロリー毎グラム度	cal/g·deg
	平方センチメートル	cm <sup>2</sup>	熱 容 量	ジュール毎度	Joule/deg
平方ミリメートル	mm <sup>2</sup>	電 流		アンペア	A
体 積	立方メートル		m <sup>3</sup>	ミリアンペア	mA
	立方センチメートル	cm <sup>3</sup> , cc	電 流 密 度	アンペア毎平方メートル	A/m <sup>2</sup>
	立方ミリメートル	mm <sup>3</sup>		電 界 の 強 さ	ボルト毎メートル
	キロリットル	kl	電 起 電 圧 力		キロボルト
	リットル	l		ボルト	V
ミリリットル	ml	ミリボルト	mV		
時 間	年	year(年)	電 気 容 量	ファラッド	Farad, (F)
	日	day(日)		電 気 抵 抗	オーム
	時	hr	マイクロオーム		μΩ
毎分回転数	回毎分	rpm	コ ン ダ ク ス タ ン ス	モーム	σ
	キロメートル毎時	km/hr		イ ン ダ ク ス タ ン ス	ヘンリー
速 度	センチメートル毎秒	cm/sec	電 力		キロワット
	メートル毎分	m/min		ワット	W
加 速 度	センチメートル毎秒毎秒	cm/sec <sup>2</sup>	磁 界 の 強 さ	エルステット	Oe
	サイクル毎秒	c/sec		アンペア毎メートル	A/m
周 振 動 数	キロサイクル毎秒	kc/sec	磁 束	ウェーバ	Wb
	メガサイクル毎秒	MC/sec		マックスウェル	Maxwell, (M)
	トン	t	磁 束 密 度	ウェーバ毎平方メートル	Wb/m <sup>2</sup>
キログラム	kg	ガウス		G	
質 量	グラム	g	キロガウス	kG	
	ミリグラム	mg	組 成	容積パーセント	vol%
	グラム毎立方センチメートル	g/cm <sup>3</sup>		重量パーセント	wt%, %
密 度	ニュートン	N	原子パーセント	at%	
	ダイン	dyn	モ ル 濃 度	モル毎リットル	mol/l
力	重量キログラム	kgw		エ ネ ル ギ ー	ジュール
	応 力	キログラム毎平方ミリメートル	kg/mm <sup>2</sup>		エルグ
グラム毎平方センチメートル		g/cm <sup>2</sup>	重量キログラム・メートル	kgm	
バール		bar	キロワット時	kWh	
ミリバール		mbar	仕 事		
気圧	atm				
圧 力	水銀柱ミリメートル	mmHg			

## 第2表 論文中の術語の書き方例

## 1) 表題に用いる術語は不明瞭な省略語は用いない。

たとえば“……………脱酸, 脱硫作用……………”とし, ……………脱O, 脱S…………”は不可

## 2) 本文にて最初に述べる術語は, 内容の十分理解できる親切な表現を用いること。

たとえば“……………生じた Hercynite( $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$ )は……………”

“平衡定数  $K'$ , Gibbs の自由エネルギー  $G$  は……………”

“マグネタイト ( $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ) を  $\text{N}_2$  を含む  $\text{CO}$  で還元した結果,  $\text{Fe}_3\text{O}_4$  は……………”

“シリカ・カプセルをかぶせた低炭素鋼板を管状炉内で加熱したが, ほとんど脱炭しなかった。”

## 3) 本文にて繰返し用いる場合は化学記号, その他のすでに認められた省略記述でよい。

たとえば溶鋼中の成分(無限稀釈液標準の場合)は C, O で表わし

“ ” “ (純液規準の場合) は [Ni], [Fe] など表わす

また, たとえば, 文中に「オーステナイト」の語が多数出てくるときは, その最初のところで「オーステナイト( $\gamma$ )」として以下「 $\gamma$ 」を用いてよい。

## 4) 学術技術の進歩とともに日本語訳では十分表現できない言葉が次第に増してきているから, 下記の例のようにカナ書きとして術語を表わす。しかし意味のピッタリした簡明な日本語訳のある場合は慣用に従つてなるべく日本語を書くことを原則とする。次に例を示す。

## 1) カナ書きが妥当と思われるもの

ガス, エネルギー, プロパン

リムド鋼, キルド鋼

ポテンシャル

窒化アルミニウム AlN

ニオブ, タンタル

グラファイト

(エレクトロンプロブ) X線マイクロアナライザー

ベアリング, または軸受

オーステナイト, フェライト, ベイナイト, インゴット,

ビレット, フープ, パス, スケール, ステンレス

鋼, クリープ, プレス, ロール, ブルーム, ブローホール,

キャンパー, カーボメーター, セメントタイト, 板

のクラウン, フェロアロイ, フランジ, ガイド, ジョ

ミニ試験, マクロ腐食, マンドレル, マルテンパー,

マルテンサイト, ノッチ, オーバル, ポリゴナイズ,

スクラップ, セミキルド鋼, シャー, スラブ, スラッグ,

ストリップ, タンデムミル, ビッカース硬さ(硬度計)

備 考

日本語になりきっている

慣用の期間が長く, ピッタリしたよい訳がない

ピッタリした日本語訳がなく慣用している

窒化アルミの形は用いない

または Nb, Ta (通常 Cb は用いない)

または黒鉛

略記としては EPMA, XMA などが慣用

“メタル”は不可 (混同しやすい)

鉄冶金慣用語の例

## ii) 原語を一度書き添えることが妥当だと思われるもの

フォーミング(foaming)

フォーミングは forming もあり混同することもある

パージング(purging)

フラッターリング(fluttering)

スカルピング(scalping)

日本語に十分慣用されていない

## iii) 省略的記述の例

78Ni-22Fe 合金

Ni-Cr-Mo 肌焼鋼

Ferro-Si-Zr

5% nital, picral など

JIS-SUS 31

U.S. Pat. 1,932,566

Hb 100, Hrc 50

$\text{HNO}_3$  (5%)

18-8ステンレス鋼の場合は慣用によつて Cr, Ni 省略

フェロアロイの場合を表わす

化学記号表示の必要はない

AISI, DIN, En その他同様

米国の慣例による

ブリネル, ロックウェル C 硬度値

分析の場合など“硝酸水溶液”に慣用



付 表 文 献 略 记 例

雜誌名	略記	雜誌名	略記
Acta Metallurgica	Acta Met.	Journal of the Iron and Steel Institute	J. Iron & Steel Inst. (U. K.)
American Foundrymen's Society, Preprint	Amer. Foundrym., Preprint	Journal of Metals	J. Metals
American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers,		Les Mémoires Scientifiques de la Revue de Métallurgie	Mém. Scient., Rev. Mét.
— Blast Furnace, Coke Oven & Raw Materials Committee, Proceedings	Proc. Blast Furn.	Metal Finishing	Metal Finishing
— The Electric Furnace Committee, Proceedings	Proc. Electr. Furn.	Metal Finishing Journal	Metal Finishing J.
National Open-Hearth Steel Committee, Proceedings	Proc. Open-Hearth	Metal Progress	Metal Progress
American Iron and Steel Institute, — Annual Statistical Report	Amer. Iron & Steel Inst. —, Ann. Stat. Rep.	Metal Treating	Metal Treating
— Contribution to the Metallurgy of Steel	—, Cont. Met. Steel	Metalloberfläche	Metalloberfläche
American society for Metals, Preprint	Amer. Soc. Metals, Preprint	Metallurgia	Metallurgia
American Society for Testing Materials, — Preprint	Amer. Soc. Test. Mat., —, Preprint	Metallurgia Italiana	Met. Ital.
— Special Technical Publication	—, Spe. Tech. Pub.	Métallurgie et la Construction Mécanique	Mét. et Constr. Mécan.
Archiv für das Eissenhüttenwesen	Arch. Eissenhüttenw.	Modern Castings	Mod. Castings
Blast Furnace and Steel Plant	Blast Furn. & Steel Plant	Revue de Métallurgie	Rev. Mét.
British Iron and Steel Research Association, Reports	Brit. Iron & Steel Res. Assoc., Rep.	Schweissen und Schneiden	Schweissen u. Schneiden
British Welding Journal	Brit. Welding J.	Sheet Metal Industries	Sheet Metal Ind.
Centre de Documentation Sidérurgie, Circulaires d'Informations Techniques	Centre Doc. Sidér., Circ. Inform. Tech.	Stahl und Eisen	Sahl u. Eisen
Corrosion	Corrosion	Stal	Stal
Foundry	Foundry	Steel	Steel
Foundry Trade Journal	Foundry Trade J.	Steel Processing	Steel Process.
Giesserei	Giesserei	Transactions of the Metallurgical Society, American Institute of Mining, Metallurgical & Petroleum Engineers	Trans. Met. Soc., Amer. Inst. Min., Met., & Pet. Eng.
Iroa Age	Iron Age	Transactions of the American Society for Metals	Trans. Amer. Soc. Metals
Iron and Coal Trades Review	Iron & Coal Trades Rev.	Transactions of the Institute of Metal Finishing	Trans. Inst. Metal Finishing
Iron and Steel	Iron & Steel	Transactions of the Institution of Mining and Metallurgy	Trans. Instn. Min. & Met.
Iron and Steel Engineer	Iron & Steel Eng.	Transactions of the Society of Automotive Engineers	Trans. Soc. Auto. Eng.
Iron and Steel Institute, Special Reports	Iron & Steel Inst., Spec. Rep. (U. K.)	United States Bureau of Mines, — Bulletin	U. S. Bur. Mines. —, Bull.
Jernkontrets Annaler	Jernkont. Ann.	— Information Circular	—, Inf. Circ.
Journal of the Institute of Metals	J. Inst. Metals	— Mineral Industry Survey	—, Miner. Ind. Survey
		— Minerals Yearbook	—, Miner. Yearbook
		— Report of Investigations	—, Rep. Invest.
		Welding Journal	Welding J.
		Werkstoffe und Korrosion	Werkstoffe u. Korrosion
		Wire and Wire Products	Wire & Wire Products
		Zeitschrift für Metallkunde	Z. Metallkunde

第4表 かながきの例

可	不可	可	不可	可	不可	可	不可
明らか	明か	かりに	仮に	それぞれ	夫々	ほかに	外に, 他に
あらかも	恰も	きわめて	極めて	ただ	唯	ほとんど	殆ど
扱う	扱かう	……くらい	……位	ただし	但し	ほど	程
あらかじめ	予め	ここ	此所, 茲	たとえば	例えば	ほぼ	略々
表わす	表す	……こと	……事	ため	為	ますます	益々
ある	在る, 有る	異なる	異なる	だいたい	大体	また	又, 亦
あるいは	或は	ことに	殊に	ちなみに	因みに	まだ	未だ
(と)いう	(と)言う	これ, この	之, 此の	ちようど	丁度	まちがい	間違ひ
いかなる	如何なる	ごとく	如く	ついて	就て, 付いて	まで	迄
いずれ	何れ, いづれ	ごとに	毎に	ついに	遂に	みなす	見做す
いつそう	一層	さしつかえ	差支へ	(の)とおり	(の)通り	(して)みる	(して)見る
(して)	(して)	ささえる	支える	(する)とき	(する)時	向かう	向う
いただく	頂く, 載く	しかし	併し, 然し	……ところ	……所, 処	明りよう	明瞭
いつたん	一旦	しかも	而も, 然も	伴う	伴なう	もし	若し
(して)いる	(して)居る	したがつて	従て……	ともに	共に	もちろん	勿論
いわゆる	所謂	……に従う	…にしたがう	ないし	乃至	…(し)やすい	…(し)易い
おいて	於て	しだいに	次第に	なお	尚, 猶	やはり	矢張り
おそい	遅い	しばしば	屢々	なぜ	何故	やや	稍
遅れる	おくれる	……しまう	…了う, 終う	など, ら	等	ゆえに	故に
おのおの	各々	十分に	充分に	ならびに	並びに	ようす	様子
おもな	主な	少ない	少い	なるべく	成可く	ように	様に
および	及び	すなわち	即ち, 則ち	はなはだ	甚だ	ようやく	漸く
かえつて	却て	すべて	総て, 全て, 凡て	ページ	頁	わかる	判る, 分る, 解る
かかわらず	拘ず	ずつ	宛, づゝ	ほう(の)	方(の)	わたつて	亘つて
かつ	且	その	其の				
かなり	可成						